

編集室から

今年の梅雨ほど多くの地域に災害をもたらす激しいものは、なかったのではないのでしょうか。被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

半世紀ほど前までの梅雨は、連日しとしとと降るもので、それはそれとして風情があったと思います。「日本の情緒」を感じさせる天候から、東南アジアのスコールのような激しい降雨か、さもなくば晴天という落差の激しい天候に、気づかないうちに変わってしまったかのようです。

一説によると、このような「気候を後戻りさせられる可能性がある時間は、今後20年ほどしかない」そうで、このまま温暖化ガスを放出し続けていくと、その転換点を越えてしまった時点で、かつてのような気候に戻ることは絶望的になってしまうとのことです。

そうなってしまうと、さまざまな災害も激甚化するでしょうし、かつ同時多発的に発生してしまうと容易に想像できます。このような世界では、その災害対策や、復旧・復興対策も大規模化・複数化が同時に進み、人々の暮らしの安全性・復元性はもとより、社会的・公共的な負担も急速に大きくなっていきそうです。

国家予算のほとんどが、災害対策費となり、それが意味社会福祉の側面を有することになる…。そんな時代のイメージは、想像したくもありません。

多感な年齢でオイルショックから都市生活が困窮した体験から、自給農家を標榜しましたが、個人的な生活防衛には、限度があります。時代はむしろ、それを越えた「個々人の生き方」を求めているのかもしれませんが。

グレタさんではありませんが、我が孫子の時代に、一体どんな地球を遺してしまうのか。時間は、極めて限られているようです。(は)



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00～23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2020/08
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>
〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp



2020/08
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

景 月



富士浅間神社にて
(静岡県静岡市)
by hama

東京をはじめとする感染者数の増加を見れば、感染の第二波が来たと判断すべきでしょう。何度も言いますが、このウィルスは「弱毒・しぶとい・長引けば肺炎、突然重症化」が特徴です。人々の接触増加に乗じて、しぶとく勢いを盛り返しています。しばらく続く『Withコロナ』の時代を生き抜くために、検査について正しい知識をまとめてみました。

前々回で触れましたが、新型コロナウイルスに対する検査は今のところ三つです。PCR検査と抗原検査と抗体検査です。PCR検査は、これまで何度も解説してきましたが、今ウィルスがいるかどうかを調べる検査です。陽性なら、ほぼ100%感染者です。欠点は三つです。一つ目はウィルス量が少なかつたりRNAが壊れたりで、感染者を見逃す危険があること。二つ目は、綿棒を鼻腔に入れて粘液を採取するためクシャミ飛沫による感染の危険があること。三つ目は、コストが高いことです。ドライブスルー方式や唾液での検査など工夫はされていますが、まだ検査のハードルは高いと言わざるをえません。需要がある事は保健所も重々承知しているのですが、行政から様々なブレーキの圧力がかかるようです。

抗原検査は、インフルエンザの簡易診断キットを想像してください。結果がその場でわかるので、自費診療で徐々に広がってきました。欠点ですが、粘液採取が必要なため飛沫感染の危険性はPCRと同様です。陽性ならばほぼ100%感染者ですが、感度はPCRより更に低いです。

そして抗体検査です。抗体は、感染して数週間後から産生され続けます。そのため数週間前までという但し書きはつきますが、症状の軽い重いの関係なく、感染したことがある人はほぼ100%陽性になりま

す。採血で済むため感染の危険性は低く、要望もあつたので、私のクリニックでも自費診療で始めてみました。すると意外にも、三十人を超える希望者がありました。今のところ、全員が陰性です。その結果をお伝えしながら、私の方が戸惑い始めました。陰性と陽性、どちらが良いことなのでしょう。陰性とは、採血の数週間前までは感染したことは無いという意味です。現在どのようなかは判らないし、今後の感染リスクも変わらず残ったままです。メリットがあるとすれば、何らかの感染予防対策をしてきたのなら、その効果はあつたと確認できることくらいです。陽性なら、いつの間にか感染して既に

治療していたこととなります。抗体があれば再感染のリスクは極めて低いと考えられるので、その意味ではホッとするでしょう。しかし、知らぬ間に誰かからウィルスをもらっていたことになりま

す。そして知らぬ間に、誰かにうつしていたかもしれない以上、その先で誰がどんな目にあつて

いるか知るよしも有りません。感染拡大に役買つていたかと思つと、これも決して良い知らせとは言えないでしょう。抗体陽性者はPCR陽性者の数倍に達するけれど国民の中では僅か、と厚生省がHPで公表しています(表)。これを否定できる明確なデータは、今のところ存在しません。一刻も早く、ワクチンが必要

抗体保有調査結果

概要	<ul style="list-style-type: none"> 6月1日～7日にかけて、東京都・大阪府・宮城県において、各都府県より無作為抽出し、本調査への参加に同意をいただいた一般住民の方(東京都1,971名、大阪府2,970名、宮城県3,009名、計7,950名)を対象に抗体検査を実施しました。 本調査では、陽性の判定をより正確に行うため、2種の検査試薬の両方で陽性が確認されたものを「陽性」としています。
測定結果	<ul style="list-style-type: none"> 各自治体の抗体保有率は、東京都0.10%、大阪府0.17%、宮城県は0.03%でした。 各自治体の抗体保有者は、累積感染者数と比較すると多いものの、依然として大半の人が抗体を保有していないという結果でした。 本事業は国全体として過去に新型コロナウイルスに感染した人の割合を推定するものであり、個別に現在の感染を診断するための調査ではありません。 現時点でこれらの抗体の性質(体内での持続期間や、2回目の感染から守る機能があるかどうか)は確定していません。



【プロフィール】
いがき としお(金沢大学北浜寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった)。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松でヌクヌクしています。

濱の起業塾 十六 『起業』

ここまで触れてきたように、起業プロセスは立志・機会・着想・試行・検証という段階を経て、本格的な起業段階へ至ると、これまでの経験から考えている。これらは、単純・一方通行的に「立志 機会 着想 試行 検証 起業」と流れることは、稀というか、ほぼ存在しない。

着想段階でその先に進めず、機会に戻ったり、検証まで進んだものの結果が芳しくなく着想を再考するなど、繰り返しや後戻りは、しばしば見られることであつて、それ自身が「悪や劣」ではない。むしろ、これらのプロセスを経ずに思い付きだけで起業へ飛び込んでしまうことの方が、思わぬリスク・障害に出くわした際、小さくない怪我の元となる。

今も続くフクシマの禍根は、全電源喪失という事態を想定外と想定してしまったことにある。人間も、その集まりである組織も、「想定外」に直面したとき、意外に脆いということを肝に銘じるならば、リスクマネジメントやリスク対策とは「想定外を限りなく減らすこと」が第一優先の対策となるこ

とは、自明の理と理解されるだろう。起業プロセスにおいても、その意義が社会的に大きいほど、そのプロセスにおける想定外の事態や、起業後に起こる可能性のある想定外の事態を、どれほどの冷静さで予見できるか？が、リスク対策の第一歩である。

もちろん、人間は全知全能の存在ではない。その故に、完全なる予見を持つことも実際には不可能である。一方で、丁寧な起業プロセスを経る過程で、さまざまな場面・状況を多角的に観る事ができる眼を持つことは、万一想定外の事態に遭遇した際にも、それまで築いた人脈や、難事を切り抜ける胆力もまた、養うことができる途となるのではないか。

さて、立志から起業に至る六段階のプロセスは、前半の「立志・機会・着想」が起業の苗床。後半の「試行・検証・起業」が起業のマネジメントの局面ともいえる。この六段階プロセスと二段階局面を理解すると、税理士・会計士を始めとする各種の専門家や専門スキルを持つ人々と、どのように付き合えばよいか、起業家として見えてくる。

次回以降は、それらについてご紹介しようと思つ。

きただより78 弘前大学 地域社会研究会 上村 康之 『「あきたこまち」のイメージの形成と波及』

全国のブランド米には、北日本においても北海道「ゆめぴりか」、青森県「青天の霹靂」、山形県「つや姫」、新潟県「新之助」などたくさんの銘柄がある。全国の栽培面積をみると、「あきたこまち」は6.8%を占め4位である(1位はコシヒカリの35.0%、平成30年度)。この「こまち」の由来であるが、平安時代の歌人で六歌仙の一人にもなっている小野小町が由来となっている。小野小町の出身には諸説があるが、現在の湯沢市小野の出身が有力なようである。毎年6月には湯沢市雄勝の小町堂において小町まつりが行われ、国道13号沿いの道の駅は「おがち小町の郷」(1999年、平成11年)であり、平安時代の女性の市女笠をモチーフにした建物である。いまでこそ、秋田県のイメージ(秋田美人)の代表にもなっている「小野小町、こまち」であるが、かつてはここまでの知名度はなかったと思われる。県南・湯沢地域の「小野小町、こまち」であり、秋田県を代表するというより、地域では知られているという程度であった。

コメの「あきたこまち」の誕生

「あきたこまち」である「秋田31号」は福井県から譲渡された1株のF1交配種子を用いて育成されたものであった。1984年(昭和59)に秋田県の奨励品種に採用され、秋田県、東北地方を中心に国内各地で栽培されている。パッケージも小野小町にちなんだ市女笠の秋田美人のイメージ画が用いられることが多く、「あきたこまち」「小野小町」「秋田美人」が結びついた。

秋田新幹線「こまち」の運行

1997年(平成9)に秋田新幹線「こまち」が開業。「こまち」はJR東日本が全国に公募して決定。当時としては新幹線の名称に無形のもの(ひかり、こだま、のぞみ、やまびこなど)が多い中、人名を起用することは異例であり、新幹線車両のボディがピンクということも斬新であった。秋田新幹線はこれまで支線であった田沢湖線の田沢湖・角館といった観光地を通り、大曲、秋田と秋田県の中央部を走る幹線となり、それまで県南・湯沢地域の「こまち」だったものが、秋田県全体のイメージへとつながったようだ。コメの「あきたこまち」と秋田新幹線「こまち」により、「こまち」が秋田県のイメージの代表として定着してきたものと思われる。

そして、現在、「こまち」の名前が付くものを挙げると、NHKニュースこまち(月~金18時10分から19時まで)、こまちスタジアム(県立球場)、JAこまち(湯沢市に本所を置く農協)のほか、天然温泉、食品会社、薬局、調剤薬局、美容室、味噌、地酒、居酒屋など分野も多岐に渡り波及効果も大きい。本年4月7日~5月17日、35年間秋田米の主力を支えてきた「あきたこまち」の後継となる「秋系821」のネーミングの公募が行われ、25万893通という応募が集まった。発表は11月に予定されているが、果たして、どのようなネーミングとなるのか、今から楽しみにしている。

『どうする日本の飲食業!?その2』 株式会社GARBAGE代表 川島 嘉浩

(前号からつづく)

小規模・零細事業者における食のプラットフォームサービスへの ニーズが高まる

コロナによる収益減少でも可視化されたように、飲食事業者の利益留保は非常に薄く1~2か月分の運転資金しか留保できていないのが実態です。その理由は、低価格(コスパ)こそ正義という世の風潮もそうなのですが、やはりプロの料理人ではあるが、プロの経営者ではないというオーナー=料理人という構造にあるかと思います。食材の仕入れには頭がまわるが、間接コストをどこまでおりこんだ経営ができていくかという点です。

定着した感のある地域食材を使ったお店ですと、食材ごとに仕入れ先が異なるため配送費はもちろん請求書の振込手数料すらもバカになりません。またこだわりの店だからこそ、鮮度にこだわるので1回単位の発注量も少なく月に何度も送ってもらうという事はざらです。しかし、個々のお店が都市部の人に地方の食材をわざわざ輸送エネルギー・コスト・リスクを背負うやり方ではもう競争力を保てません。90%以上が小規模・個人事業者の飲食事業において『こだわり』だけでは事業の持続確保が難しいのです。

そこで提案したいのが共同購入~物流~決済~人材・労務・税務などを一括管理するシステムです。料理人である飲食店オーナーが調理やサービス開発だけに集中できる体制づくりが結果収益を生み出します。食のeマーケットプレイスや決済一括代行などを提供しているインフォーマット社などといったサービサーが業容を拡大し、これからの飲食業界を支えていくのではないかと考えています。

地域ごとの多様な食文化や、他国の料理さえも取り入れてきた日本の飲食店ですが、その数は世界主要都市でも断トツの1位です。10万人あたりの店舗数で2位のソウルの約2倍、食の都パリの3倍超です。今都市部を中心に店舗廃業の嵐が吹き荒れています。景気云々だけの話ではないので当面はその流れは続くでしょう。そもそも数が多すぎたと言えばそこまでですが、改めて持続可能な商売にしていくためにも、これまでの当たり前との決別をしなければならぬ時期が目の前に迫っています。

コロナ前とこれからは全く世界が違うということを僕自身含めて直視しないといけないんです。頭ではわかってはいるけど、考え方を根本から変えるって本当難しいんですけどね。生き残らねば!!!

『富士の国から ~大魔神のたび~』足柄駅交流センターに想う 静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

小山町に平成26年に着任後すぐに、町長から「足柄駅舎を有人化することから始め、賑わいのある場にしたい。については駅舎を建替え、足柄支所とコミセンを合築したい。」との使命を頂戴した。

「町の都合での建替えならば町の負担で、機能補償の負担も、線路のそばでの工事であるから、様々な制限があるので十分な協議を」とJR東海が言うことは想像に難くなかった。JR東海は地域に対する協力が希薄なことは知られたことで、リニア工事で静岡県との協議が整わないことも根は同じだ。

足柄駅は1903年(明治36年)に足柄信号所として開設された。昭和9年に丹那トンネルが開通すると、鉄道は地方路線「御殿場線」に格下げ。これを好機とらえた足柄地区住民は駅の新設運動を開始し、昭和22年に信号所を駅に昇格させた。駅舎も住民が主体となって建築したものである。



時を経て、今回もJRではなく町が主体となってつくることには変わりはない。JRとのやりとりには込山前町長が直接出向くなど、精力的な交渉が功を奏したのか29年度から具体のスケジュールや条件が示され、動き始めた。

この間に足柄駅を取り巻く状況に大きな変化が生まれていた。御殿場プレミアム・アウトレットの増築・ホテル建設、大型リゾート施設「アクアイグニス」の進出、ホテルジャストワンのオープン、そして何よりオリンピック・パラリンピック自転車競技の町内開催がそれだ。

現在一日乗降客数500人程度(下り25本、上り23本の発着がある)であるが、大幅に乗降客が伸び、町の鉄道玄関口として重要な役割を担うことになることは明白だ。これだけ玄関口の機能が強くなるとコミセンまで合築となるとスペースに余裕が無くなる。コミセンを使う町民としては普段着使いがしにくくなることもあって、現施設を改修し使うこととし、足柄駅交流センター内には含めないこととした。

そこで、町の玄関口の設計者を決めるために、公募型プロポーザルを実施した。12社から参加申込書の提出があり、第1次審査で6社に絞った。その内の5社から技術提案書が提出され、30年4月にプレゼンテーション及びヒアリングと技術提案書の審査の結果、後にオリンピックの会場になる新国立競技場のデザイナーである(株)隈研吾建築都市設計事務所を選定した。

選定の理由は、町の最大の観光資源である富士山を活かした人を迎える空間となっており、来る者に感動を与えることが期待される。また、広場の構成は優れた景観及び交流を創出するものになっている。地



元木材の富士山金時材を使った巧みな木のデザインと、その実現に地元で対応できる技術的配慮がある。

自然エネルギーを活かした無理のないエコ建築となっている。これまでの実績及び業務遂行体制が優れ、広範にアピールできる施設の実現が期待できる。

今、日本を代表する世界の建築家隈研吾氏の建物がこの小山町に現れることにワクワク感を隠すことができない。オリンピック開催前には姿を現すことになる。大いに期待していて欲しい。そして、足柄駅交流センターが町にどんな変化をもたらすのか楽しみである。

と過去に作文した実物がこの4月に目の前に現れた。プロポーザルで提案した形と変わっている。由布院にあるCOMICO ART MUSEUM YUFUINや根津美術館に通じる軒線が美しい切妻と方形の屋根の組合せが、屋根を一つにし富士山に向かって伸びあがっていく形になった。隈研吾氏が現地を訪れた時に、駅そばにある嶽之下宮に立ち寄り、その社殿の近代的デザインに触発されたからだと思っている。

この小型建築に隈デザインが凝縮されている。色は白か黒身が強いチャコールグレーの2色のみしか使われていない。サッシの色も合わせてある。トイレ等のサインがオリジナルで既製品は使っていない。聞くとところによると建物ごとにサインのデザインが異なり、その専門の職員がいるとのこと。軒線をすっきりとさせるために軒樋は無い、人の出入りがあるところは軒先にアングルを付けることで雨水を通路には落とさないようにしている。透明のガラスへのぶつかり防止に丸い金属プレートが貼られていることが多いが、ここは特徴的な垂木の線を象徴するが如く細い白テープが貼ってある。床レベルからサッシ枠を見せないような収まり等、細部にわたりこだわりの見え隠れする。そうそう、夜の景への配慮も秀逸で美しい。

どう使いこなしていくかに、こちらの力量が問われる建築と言うのもいい。変化が楽しみだ。

この完成を見た今、そろそろ小山町の舞台から去る時が来た。6年と4か月が経とうとしている。任せられ仕事は思う存分満足のいくものができた。町民も満足していると思っている。次はオファーのあった4つの自治体から最も近い神奈川県南足柄市にトラバーユすることにした。老朽化した施設の戦略的改修や不要となった公共施設の後利用、対象エリアの活性化等、課題は山積だ。どこまでできるか未知数だけど、鮮度がモチベーションを高めさせる。お楽しみはまだまだこれからだ。

